

ばれっと

2009
3月

No.115

■ 目次 ■

- | | |
|---------|--|
| すぽっとらいと | 情報バリアのない社会の実現を目指して
みやぎ手話工房フロムハート |
| アラカルト | 日々の会計は大丈夫？
年度末だからこそ、会計を見返してみよう！ |
| サポセン日記 | サポセン・シアターを3倍面白くする企画 その2 |
| イベント紹介 | 3月のイベント紹介
【第2期】サポセン・シアターを3倍面白くする企画、大募集！ |
| お知らせ | 骨プロ・新施設追加+新サービス スタート！ |



ベンジャミンの独り言

サポセン入り口で、みなさまをお出迎えしているのが、私です。背丈はだいぶ大きくなりましたが、ちょっと葉数が少ないのが気になります。時々スタッフの方々に活性剤などを注入していただきながら、日々穏やかにすごしております。お越しの際はこんな私に一声かけてください。そうしていただくと、元気がでます。

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

情報バリアのない社会の実現を目指して みやぎ手話工房フロムハート

聴覚障がい者の視点を生かし、聴覚障がい者が遭遇しがちな「情報バリア」をなくすため、昨年8月に発足したばかりの団体です。定期的な「日本手話」教室の活動を続け、今年3月にセミナーを開くまでに成長しました。今回は代表の工藤豊さんにお話を伺いました。



▲ 代表の工藤豊さん

●聴覚障がい者の「情報バリア」

駅で電車が遅れた時、多くの方々は駅の構内放送でそのことを知ると思いますが、聴覚に障がいのある方は、放送を聴くことはできません。掲示板でも情報は得られますが、掲示板をみることの出来る場所は限られています。つまり、聴覚に障がいのある方は、健聴者に比べて情報を得ることが難しく、時間がかかるのです。工藤さんはこのことを「情報バリア」と表現しています。

また、聴覚障がいは、見た目では分からない障がいのため「見えない障がい」と呼ばれています。街中で声をかけられても反応できないので、誤解されてしまうことがあるそうです。さらに、一般的なセミナーひとつ参加するにしても手話通訳がつくつかないかで情報を得る量は大きく違ってきます。このように聴覚障がい者は、まだまだ社会的な理解がなされておらず、思うように社会参加できない「壁」があるのが現状なのです。

●伝わらなければイミがない

ところで、フロムハートが広めようとしている「日本手話」とはどういうものなのでしょう。一般に知られている手話は「日本語対应手話」といい、日本語と同じ文法で話が進むため、日本語を習得していることが前提です。そのため、難聴や中途失聴の方には適していますが、先天的に聴覚障がいのある方にとって、日本語の文法や慣用表現の習得・理解は難しいものがあるそうです。

そこで昔から使われていたのが「日本手話」です。日本語と文法が少し違っていて、表情や目の動きも使って話を進めていきます。例えば「道草を食う」を日本語対应手話で話すと、「道に生えている草を食べる」と言葉通りに捉えられてしまうことがあります。しかし、日本手話では「まっすぐ帰らず〇〇に寄る」という意味も含めて具体的に表現するので、意味が正確に伝わります。

日本手話は、文法の違いや表情を読みとる点が難しく奥深いようですが、きちんと意味が通じるという点でとても有効なコミュニケーション手段になるとのことでした。きちんとした「伝わる手話」を広めたいというのが活動の出発点です。

●仲間とともに

正確な意思疎通ができる「日本手話」は、東京などの関東圏では学べる環境があるものの、東北では1件もありませんでした。

このような現状をうけ、「日本手話を理解できる人を増やしたい。少しでも手話ができる人・分かる人が増えれば、聴覚障がい者にとってもっと住みよい社会になる」と考えていた工藤さん。2～3人の仲間と「ちょっと始めてみよう！」と動き始めました。まずは、定年を迎えたけれどまだ教えたいという熱意のある方や、手話講師経験のある人などから声をかけて仲間を増やしました。そして昨年8月、メンバー10名で「みやぎ手話工房フロムハート」をスタートしました。

その後9月から12月までは指導者養成の研修を中心に活動してきました。人に教えるには、指導のノウハウだけでなく、心の準備が必要だからです。そして今年1月からは指導者研修を継続しながら「手話サロン」を開催。3月には「手話セミナー」を控えており、着実にステップアップしている様子がうかがえます。現在正会員は32名になり、その内講師候補者も5～6名育ってきているそうです。

メンバーにはろう者、難聴者、健聴者がいますが、間に壁はなく、コミュニケーションはしっかりとれているとのこと。活動に参加したメンバーのみなさんは、はじめは「難しい」という感想を持つそうです。特に指導者レベルの方は厳しい指導を受けているので大変だとか。ただ、日本語とのズレを改めて自覚することができるので、みなさん、協力し合いながら一生懸命勉強しているそ

団体紹介

みやぎ手話工房フロムハート

聴覚障がい者の社会参加と自立を促進し、健聴者や手話を知らない聴覚障がい者へ正しい日本手話を普及させ、情報バリアのない社会の実現を目指して、2008年8月に団体を立ち上げる。サポセンで定期的に手話教室を開講するなど、積極的に活動している。

<団体連絡・問合せ先>

〒980-0811

仙台市青葉区一番町四丁目1-3

仙台市市民活動サポートセンター レターケースNo. 156

FAX: 022-251-6189

E-mail: deaf-mute-masakari@r5.dion.ne.jp



▼ 指導者研修会の様子

うです。

一般の手話講座は日本語ありきの状態です。聞こえない人にとっては、やりにくいことがあります。フロムハートの場合、ナチュラルアプローチという方法で手話を教えています。「聞こえない人が、手話を手話で教える」という指導方法で、自然に「目で見て分かる」ということを目指しているそうです。「子どもに日本語を教える時、いきなり文法から始めたりはしないですよ。少しずつ、階段を上るような自然な学び方です」と、工藤さん。

●拠点サポセン

活動は、定期的にサポセンで行っています。交通の便が良く、メンバーが集まりやすいところが一番気に入っている点です。また、平日は午後10時まで開館しているので、仕事を終えてから利用できるのも良い点の一つ。加えて、料金があまり高くないことも助かっているそうです。

事務処理にはレターケースとロッカーを活用していて、特にロッカーは、「重い荷物を持って移動しなくて済むので良いですね」とおっしゃっていました。少人数の打合せなどでは交流サロン、講習会などの時は貸室利用と使い分けています。

逆にサポセンに頑張してほしい点は、施設のバリアフリーについて。建物自体の問題と、手話での対応ができるスタッフがいないことが気になっているそうです。現在は筆談での対応ですが、手話ができればもっとスムーズにコミュニケーションがとれると考えているそうです。

●「いつでも・自然に」学べる

「日本手話を習得するのは英語を勉強するぐらい難しいけれど、普段から実践していけば必ず身につきます。大事なのは時間より気持ちです。また、学ぶ場の環境というのも大事かもしれませんね」と、工藤さん。

仙台で「日本手話」を学べる環境があることを広く知ってもらうため、3月にセミナーを開きます。「セミナーでは、日本語と手話のズレを知ってもらいたいです。どんなことが不便なのかきちんと知ってほしい。現状を知ってもらうだけでも変わるものがあるかもしれません。まだ団体としては6ヶ月の赤ちゃんですが、将来は事業化できるようにしていきたいんです」という思いも話してくださいました。

聴覚障がい者の社会参加と自立を促進するというミッションを掲げているフロムハート。そのために聞こえない人の職業として、手話講師という仕事を確立していきたいと考えています。将来英会話教室のように街に手話教室ができたらいなとビジョンをもちながら、市民が手話をいつでも、好きなときに学べるような社会環境になることが願いだそうです。



取材を終えて

スタッフの間で「フロムハートさんの手話は表情からなんとなくわかる」という声を聞いたことがあります。今回の取材でその理由が分かりました。そして、「まずは、やってみよう」という勇気が団体の立ち上げや成長には欠かせない要素なのだと感じました。

(担当：菅野 祥子)

日本手話セミナー

■日時 3月14日(土) 19:00~21:00
(受付は30分前から開始)

■場所 仙台市市民活動サポートセンター
6階・セミナーホール

※セミナーは現在定員に達したため、受け付けを終了しております。団体へのお問合せは、上記団体連絡先まで。

アラカルト

◆市民活動に役立つ情報やサポセンで開催された講座や事業の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

日々の会計は大丈夫？ 年度末だからこそ、会計を見返してみよう！

日々の団体の活動にあわせてついてまわるのが会計業務。
年度末にむけて決算書類を作成する時期が近づいてきました。今回のアラカルトでは、
会計の基礎についての情報と会計の決算に必要な処理についてお伝えします。

◆NPOの会計の目的

NPO法人に限らずどのような団体であっても、会計は必要なものです。

その中でも市民活動団体やNPOは、会費や寄付、助成金など多様な収入があります。お金を預かった会計担当者、または実際にお金を動かすスタッフなどが、その団体のお金を適正に使ったかどうか、不正がおこなわれなかったかどうかを確認できることが大切です。そして年度末には、1年間の収支状況を会員や支援者、その他の利害関係者へ報告する義務があります。

団体の会員や支援者、助成財団など資金や資源を提供してくれた人に対し、適正な報告をしていくことが大切です。そうすることによって団体の活動の理解を得られるようになるのです。

◆会計の方法

会計の方法は、大きく分けると3つあります。

①家計簿・小遣い帳方式(単式簿記)、②企業会計方式(複式簿記)、③公益法人会計方式(特殊な複式簿記)です。

①の家計簿・小遣い帳方式は、入金・出金が記載されているもので、一般的な現金出納帳と同様です。法人税の申告をする必要のない団体一任意団体はこれで十分です。

団体の日々の現金や預金の出入りを記録するのが出納帳。さまざまな様式のものがありますが、サポセンでお勧めするのは、「多桁(たけた)式現金出納帳」です。現金出納帳に勘定科目ごとの集計欄を設けて集計しやすくした帳票です。年間予算1,000万円未満の団体であれば、この出納帳で管理が可能です。

▼
多桁(たけた)
式現金出納帳

現金出納帳(2009年1月)

年月日	摘要	残高	収入				支出							
			会費収入	事業費1	事業費2	預金引出	事業費1	事業費2	通信費	消耗品費	印刷費	雑費	預金預入	
2009	前月度より繰越	30,000												
1月7日	会費収入(○山口子さん)	33,000	3,000											
1月7日	会費収入(○岡△雄さん)	36,000	3,000											
1月13日	講座参加費(10名分)	46,000		10,000										
1月13日	講座講師謝礼	41,000				5,000								
1月13日	講座会場費	37,000			1,000	5,000	10,000							
1月13日	講座用文房具代	33,500							3,500					
1月20日	通信印刷費	32,500								1,000				
1月22日	通信切手代	24,500							8,000					
合計		24,500	6,000	10,000	1,000	5,000	15,000	0	8,000	3,500	1,000	0	0	
累計			23,730	50,000	19,000	50,000	241,320	2,000	25,000	56,000	8,000	6,000	25,500	

団体の会計実務を行っていく際に必要な各証票類を準備しておきましょう。証票とは、支出、収入に関わる請求書や領収書のことで、下の表のようなものがあります。

領収証	証票綴りに日付順に貼付し保管。
旅費清算書	バス・電車を利用した場合などで領収書がもらえない場合、旅費清算書に記載して清算。
支払い証明書	旅費以外にも領収書が入手できない場合には、支出者が一定の様式に支出内容を記載して清算。
仮払い申請書 清算書	仮払いを行う時は申請書に記載する。旅費の場合は旅費清算書で清算するが、それ以外は仮払い清算書で精算。

お金の入出金は、証票との引き換えが原則です。現金出納帳に記入した後、証票類を整理することも大切なこと。定型の台紙に貼るなど一定の方法で、日付などがわかるよう保管をしておきます。あとからまとめて行うとかえって大変な作業になります。会計の基本は「その都度処理」です。毎日の処理がしっかりされていることが速やかな月締めや年度締めの処理へとつながるのです。

団体の会計を行う際に必要な出納帳や各証票のフォームなど、即座に使えるデータがサポセンにありますので、ご希望の方は窓口スタッフまでお声がけ下さい。

◆会計報告の目的は？

会計の目的とは団体の資金や資源がどのように効率的に、効果的に、経済的に使われているか評価し、報告することです。団体の内部で資金管理のために行う場合、外部用に報告を行う場合、また税務用として使用する場合といくつかの目的を果たすための会計があります。

何のため	誰のため	使う資料
内部管理用	理事会、 運営会議など	資金繰り表 (収支決算書)
外部報告用	所轄庁、 助成団体、 利害関係者、 税務署	収支決算書 貸借対照表 財産目録 損益計算書 (税務署用)

◆決算ってなあに？

団体の会計期間の最終日に帳簿を締め、その時点での財政状態や事業年度における収支状況を明らかにする一連の手続きを決算といいます。

この決算処理は、任意団体であってもNPO法人であっても行います。

◆NPO法人の場合

NPO法人の場合は毎年、事業報告書や収支計算書などの報告書類を所轄庁へ提出することが法

によって義務付けられています。会計に関するものは下記の書類です。

・収支計算書

現金や預金の出入りを記録した出納帳をもとに、収入、支出を科目ごとにまとめたものを計算書として作成し、1年間でその団体にくらの収入があり、それをどのように支出したのかを明らかにするためのものです。

・貸借対照表

法人の資産、負債、純資産（正味財産）を記載した計算書です。

・財産目録

法人が所有しているすべての資産および負債を具体的にその種類、数量、価額を付して記載した書類です。

・損益計算書

課税対象収益事業とみなされる分について、収益と費用の差額から当期利益を算出するもので、これは税務署申告用として作成するものです。

NPOの会計は会員や支援者、その他の利害関係者のためのものです。作成した報告書は、見る人がわからなければ報告の意味はなく、新たな会員や支援者を得るためにも、わかりやすい会計報告でなければなりません。

それが、団体の活動の理解や充実を図るためにつながるものなのです。

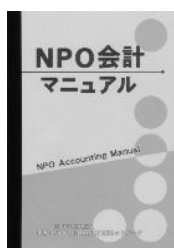
(担当 伊藤 浩子)

◆会計お薦め図書

会計の関する細かい疑問は、団体によって様々。サポセンの貸出図書でも会計に関する図書が揃っています。下の2冊は、[A-3 会計・マネジメント]コーナーにあります。



NPO法人の決算について、概要や決算実務、処理について細かく書いてあります。演習問題や法人の内部統制チェック表もあり、団体の会計整備に活用できる図書です。



初心者にも分かりやすい入門書。NPO会計の概要、勘定科目の設定、帳簿の付け方といった、会計未経験の担当者にもわかりやすい簡単マニュアルです。サポセンでも販売している人気図書です。

◆お役立ち情報

会計の処理を行っていくうえで団体それぞれに具体的な不明点もあるかと思います。そんな時には税理士の方に相談したり、会計関連のホームページを参考にすると良いでしょう。

NPO会計税務サポートサイト

<http://npoatpro.org>

シーズなんでも質問箱

<http://www.npoweb.jp/>

出典

『ウサギもカメもよくわかる

NPOの会計』

(特活) まちづくり情報センター

かながわ 発行

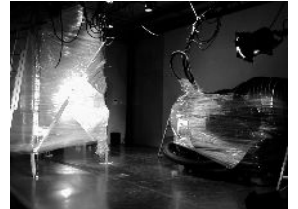
『NPO法人の会計』

田中 義幸 著

サポセン日記

サポセン・シアターを 3倍面白くする企画 その2

8月より実施されている、「サポセン・シアターを3倍面白くする企画」。今回はダイジェスト版として、11月(後半)~1月のご報告と、ラストを飾る2月の紹介を行います。



11月

劇団麦創立45周年記念

第93回公演 ノアとハワード

主催:劇団麦

世界の3分の1の富を手にしたといわれる、大富豪ハワード・ヒューズ。その人物像を、側近ノア・ディートリッヒの視点から追ったドキュメンタリータッチの演劇。

場面転換もなく、なんとノアの事務所だけで物語は進んでいきます。しかし、そこは役者の腕の見せ所。時の流れを、登場人物の表情やしぐさで演じます。

劇団麦さんは、2008年がなんと創立45周年！今回、創立45周年記念公演の第1回、第2回がサポセン・シアターで開催されたのは、私たちにとってもとても嬉しい出来事でした。

12月

舞台公演 ぶこきがアンサンブル

ーみんなが何かを持っているー

主催:即興パフォーマンス集団すんぷちよ

いったいこれから何が行われるのでしょうか！？なんと、2トラック2台分の資材がシアターに運び込まれました。それを見ていたスタッフからは「家でも建てるのかな？」とのん気な言葉が。

数時間後には、ラップでぐるぐる巻きにされた鉄パイプのタワーがあったり、10mのホースが天井からぶら下がったりと、摩訶不思議な空間が地下に展開していました。

シアターでは、初めてのダンス公演。フラットな空間を生かして、シアター全てを舞台に変えて行われました。

1月

office-overプレゼンツ

“INDEPENDENT” in 仙台

主催:office-over

毎年11月に大阪にて開催される、一人芝居フェスティバル“INDEPENDENT”が仙台に初上陸。一人芝居は初めて観ましたが、観客の視線は役者一人に視線が注がれます。これぞ、役者と観客の一騎打ち！上演中は、ただならぬ緊張感が立ち込めていました。

大阪で実施されている“INDEPENDENT”に、挑戦した今回の企画。初日には、in-dependent theatreの相内さんをお迎えしてのアフタートークが実施されました。仙台から、新しい一人芝居のムーブメントがこれから起こりそうです。

2月

仙台リーディング・シアター・ウィーク

この街には人の気持ちを伝える声がある

主催:演劇集団Lada Trosso

2/27

~

3/1

8月から行われてきた、「サポセン・シアターを3倍面白くする企画」もいよいよ2月でラストとなりました。ラストを飾るのは、演劇集団Lada Trossoプレゼンツ「仙台リーディング・シアター・ウィーク」です。

この公演は、日替わりで3組のアーティストがリーディングの上演を行います。初日は、「仙台・宮城を讀む」と題し、土井晩翠などの宮城県内に縁のある人たちの作品を上演します。2日目は「韓国の詩から」、3日目は「世界の詩人たちからのメッセージ」と、テーマを変え上演します。

演劇とは一味違うリーディングを味わってみませんか？

(担当:内川 奈津子)

イベント紹介

3月

- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
3月7日(土) 14:00~18:00	ー今月は例会&勉強会ー わが子の「非行」で悩む親を中心にそれぞれの思いを語り合い、学び合っています。	研修室3	500円 (事前申込不要)	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会 Tel:080-1838-7464 (星野はるか)
3月10日(火) 10:00~11:45	親業セミナー 「新学期を迎えて」 ~子どものやる気を引き出すには~	研修室5	500円 (事前申込不要)	PETフォーラム Tel&Fax:022-281-0858 http://www.k3.dion.ne.jp/~smile55/index.html (石田えみ子)
3月14日(土) 19:00~21:00	「日本語手話セミナー」 (現在、定員のため受付終了)	セミナーホール	一般:2,500円 フロムハート会員: 2,000円 (事前申込必要)	みやぎ手話工房フロムハート Fax:022-251-6189 E-mail:deaf-mute-masakari@r5.dion.ne.jp (工藤豊)
3月15日(日) 13:30~16:30	介護しているみんなのつどい:介護報酬改定と介護現場の学習と分散会で楽しく役立つ交流会	セミナーホール	500円 (事前申込必要)	みやぎヘルパー・介護労働者連絡会 Tel:022-236-9651 Fax:022-283-0035 (上條栄治)

【第2期】サポセン・シアターを3倍面白くする企画、大募集!

Don't miss it!

2008年の8月より実施された、「サポセン・シアターを3倍面白くする」企画。この中では、演劇、ダンス、ワークショップ、ライブと様々な催し物が開催されました。2009年も昨年に引き続き、皆さまからの企画を募集いたします。130㎡の平土間スペースは、アイデア次第で様々な表情をみせます。文化芸術活動の創造・発信、NPO活動の発信を目的としたシアターの可能性、あなたの可能性をひらく、魅力あふれる企画をご提案ください。



- ・応募受付期間: 2009年2月26日(木)~3月4日(水)
- ・実施期間: 2009年6月~8月、2009年12月~2010年2月
※実施期間内に「市民活動シアター」を会場として行う企画が対象となります。
- ・募集数: 6企画
※選考した企画は、2009年6月~8月、2009年12月~2010年2月の期間に、1ヶ月に1企画ずつ実施します。
- ・申込み・問合せ
仙台市市民活動サポートセンター
TEL.022-212-3010 FAX.022-268-4042 (担当:小松、内川)

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ < 申込み・問合せ > TEL 022-217-3983 仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

シニア専門相談 <無料/予約制/1組1時間程度>	シニア総合相談 <無料/先着5人/予約制>	シニア一般相談 <無料/予約は不要>
<p>■3月14日(土)10:00~18:00 1人で料理できますか? 自分の食の自立は大丈夫? 料理を通じて、自分の食と生きがいを満足させませんか!</p>	<p>■3月26日(木)13:00~20:00 定年退職後の3大キーワード、「経済面」「健康」「生きがい」についての不安や疑問を、一緒に解決しませんか?</p>	<p>○平日・土曜日 10:00~20:00 ○日曜日・祝日 10:00~18:00 ◆休館日 毎週水曜日・12/29~1/3</p>

お知らせ ●○○●



骨プロ・新施設追加＋新サービス スタート！

骨プロ(仙台に情報の背骨を通すプロジェクトの略)は、市民による情報の受発信を支援し、市民活動に関する情報を多くの市民に届けるため、仙台市内の公共施設が協力して行うプロジェクトです。このプロジェクトに、新しい施設と新サービスが追加されました！

①新施設

新たに仙台国際センターが加わり、計10施設にチラシをお届けします。

＜骨プロ 参加施設＞

- 仙台市市民活動サポートセンター
- 仙台市中央市民センター
- 仙台国際センター
- 仙台市情報産業プラザ(ネ！ットU)
- エル・ソーラ仙台
- エル・パーク仙台
- 仙台市ボランティアセンター
- せんだいメディアテーク
- 仙台市青年文化センター
- 仙台市子育てふれあいプラザ(のびすく仙台)



②チラシの電子化サービス

せんだいメディアテークが管理運営するウェブサイトにおいて、チラシを電子化し、インターネット上に公開するサービスがスタートしました。

インターネットで公開します

●<http://www.smt.jp/honepro/>



仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

- 開館時間 平日 / 午前9時～午後10時
日曜・祝日 / 午前9時～午後6時
- 休館日のお知らせ(施設点検等のため)
2/25 3/25

サポートセンターのサービスあれこれ

- 貸 室
(研修室・セミナーホール・市民活動シアター／有料)
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
- ロッカー(有料) レターケース(無料) 事務用ブース(有料)
- 交流サロン
少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料)
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース
インターネット接続スペース(要申込/無料)
- 情報サロン
市民活動団体に関するさまざまな情報があります。
市民活動相談の受付や図書の閲覧、貸出も行っています。
市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧(無料)
- 印刷作業室
印刷機(紙持ち込み/1製版100円、紙折り機(無料))
コピー機(1枚10円)

■ 問い合わせ先 ■

発行 行：仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042
ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2009年2月23日
編集 集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
編集 人：小松州子 葛西淳子 内川奈津子

- ★古紙再生紙を使用しています。
- ★大豆油インキを使用しています。



編集後記

- ◆サポセンお向かいの花屋さんの店先が、春らしくなってきました。桃、桜、チューリップなどなど、そういえば春の花はピンクが多いかも…。(小松)
- ◆そろそろ、ヤツウの季節が始まります。そう、花粉飛び交う季節！私は5月が辛い時期ですが、花粉症は早め早めの対策で、少し楽になるそうです。(内川)
- ◆3階のフロアにも、シャコバサボテンがきれいに咲いています。利用者の方もいっしょに、お世話してくださっています。(葛西)

■ 案内図 ■



- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前、
広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前
[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ
□当施設に駐車場・駐輪場はございません。
お車や自転車でご来館される方は、
周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。
指定管理期間：2007年4月1日～2010年3月31日